

コミュニティ・スクール設置にあたって  
校長のビジョン形成やマネジメントのあり方  
～ 学校運営協議会づくりで考えたいこと ～

元文部科学省CSマイスター  
高木和久氏

## 1 はじめに

- ・CSマイスターを11年務めてきた。文科省でなく、現場の味方のつもりで務めた。
- ・北名古屋市のCS設置に10年間関わってきた。
- ・CS設置は学校のシステムを大きく変えること。学校だけでなく、行政にも努力してもらう必要がある。

## 2 CS設置後のこれまでの課題

- (1) 学校運営協議会委員の当事者意識をどう育てるか
  - ・学校担当者の負担感が大きい。(会議・資料の準備等)
  - ・充て職が委員を務めると1年ごとに交代し、建設的な意見が出にくい。
  - ・新任校長も意見を述べにくい。複数でのビジョン形成が必要である。
  - ・運営事務局づくりを図り、1年間や数年先までの活動の見通しをもつ。
  - ・CSの活動は学校が主体となるのではなく、事務局長やコーディネーターが中心となって進めた方がよい。
- (2) 地域の協力を得るために
  - ・CSは「社会に開かれた教育課程」とタイアップして活動しなければ、子どもの力は育たない。
  - ・予算確保・経費捻出が難しい。(学校ファンドの必要性)
  - ・学校運営協議会としての年間評価がない。協議会自体の評価を行い、改善を図っていかなければならない。

## 3 CS設置に向けたビジョン形成とマネジメント

- (1) 地域コミュニティの問題点
  - ・地域コミュニティが衰退しつつある。(町内会・子ども会・PTA等)「目的はあっても目標がない」子どものためであっても、目指す姿がはっきりしていない。義務的に活動している。
  - ・学校に対して、してあげている感が強い。
- (2) CSで地域創生を図る
  - ・テーマコミュニティ(まちづくり委員会・各種クラブ・サークル等)とも縦横の関係づくりを図るとよい。

- ・地域実態をどのように解決するのか。地域に住む子どもたちをどのように育てるのか。ビジョンを共有し、目標実現に向けて協働する仕組みをつくる。
  - ・CS設置で終わりではない。設置後から、いよいよ始まる。
- (3) 学校と地域の関係性
- ・「双方向」と「対等」を大切にする。
  - ・学校を応援するのではなく、学校の子、地域の子、それぞれの立場で子どもの課題を共有し、子どもを育てる目標を共有する。「熟議」と「協働」
  - ・地域の要望全てを聞く必要はない。学校の意見をきちんと述べる。
- (4) CS設置準備委員会の設置
- ・学校運営協議会委員候補を挙げる。代表は校長の一番の理解者、協力者、代弁者を選抜したい。
  - ・学校運営協議会委員に何をしてほしいのか明確にし、依頼する。
  - ・「熟議」を重ね、課題や目指すべき子ども像を共有する。(目標の設置)
  - ・学校運営協議会設置に向けた行程を共有する。
  - ・取組や組織の役割等を明確にし、1枚の組織図にする。
  - ・学校運営協議会規則を検討する。
  - ・運営事務局を設置し、校長、コーディネーターの役割を明確にする。
- (5) 熟議とは
- ・課題の責任を他者や組織に転嫁しても何も始まらない。「評価」と「批判」を間違えないようにする。
  - ・自分がどのような立場で話し合いに参加しているのか明確にする。教職員の立場から地域に課題提起してもよい。
- (6) 学校運営協議会の主な役割
- ・学校運営に関する基本的な方針を承認する。ただし、「OK」から「Let's」へ。一緒にやりましょうという承認の仕方をお願いする。
  - ・運営に関する意見を述べるができる。
- (7) ビジョンの視点から
- ・まずは、校長がビジョンを明確にもつ。
  - ・子どもにどんな力を育てるのか目標を共有化し、地域や保護者にも理解できる具体的な行動目標を設定する。
  - ・子どもはどこへ行っても「お客さん」。お客さんから脱却して、自分たちの意志で動くことができる家庭・地域・学校づくりを図る。
- (8) システムの視点から
- ・社会に開かれた教育課程の実現のため、学校運営協議会と地域学校協働活動が一体となって推進する。

#### 4 おわりに

- ・大人がプログラムした取組から子どもがPDCAを実施できるCS体制を目指す。